

町 長	副町長	教育長	課 長	主 幹	スタッフ	合 議
						教育振興課 学校給食センター



令和6年度第1回  
上富良野町総合教育会議 会議録



令和6年11月5日

## 令和6年度第1回上富良野町総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年11月5日(火)
- 2 開催場所 上富良野町役場3階第2会議室
- 3 出席した者  
構成員（6名）
  - ・上富良野町長 齊藤 繁
  - ・上富良野町教育委員会教育長 鈴木 真弓
  - ・上富良野町教育委員会委員 三熊 邦彦
  - ・上富良野町教育委員会委員 久保 麻子
  - ・上富良野町教育委員会委員 四釜 充啓
  - ・上富良野町教育委員会委員 林 憲億説明員（5名）
  - ・教育振興課長 高松 徹
  - ・教育振興課学校教育班主幹 長谷川 京史
  - ・教育振興課社会教育班主幹 村上 弘記
  - ・教育振興課教育支援担当主幹 松田 剛
  - ・上富良野学校給食センター次長 新井 晶事務局他（3名）
  - ・総務課長 上村 正人
  - ・総務課総務班主任 大井 隆治
  - ・総務課総務班主事 長瀬 結香
- 4 協議事件 (1) 教育支援センターについて  
(2) 部活動の地域以降について  
(3) 給食センターの運営について
- 5 開会宣言 14時57分
- 6 町長あいさつ 省略

7 協議事件の要旨 次のとおり

発言者	協議事件の要旨及び内容
教育振興課長	<p>教育支援センターの運営について資料1に基づき説明。</p> <p>まず、資料の1枚目につきましては、町内の小中学校ごとの不登校の児童生徒に関する資料です。表の一番左端が児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査による令和5年度末の不登校人数となります。年度ごとの推移としては、平成29年から令和5年度までの数値を計上しております。次に、3列目4列目につきましては、児童生徒動態状況報告による、小中学校での7日以上長期欠席者数及び町内の児童生徒数の全体数を記載しております。次に、右側2列につきましては、教育支援センターの利用登録者数で、現在は小学生が5名、中学生が16名、合計で21名の方が登録されております。また、教育支援センターでは、通所以外に各学校へのカウンセリングを行っており、一番右端の列にその人数を記載しております。支援センターの月別の利用状況として、センターに通所された、小学生、中学生、それぞれの延べ人数を記載しております。センターに通所している子どもたちの過ごし方は様々であり、1人で過ごす方、スタッフと一緒に過ごす方、体を動かしながら過ごす方もいれば、読書学習で過ごす方もいるという状況になっております。</p> <p>次に、資料の2枚目につきましては、支援センターが、子どもたちや保護者、学校などどのような関わりを持って運営しているのかを表しております。資料につきましては以上で、その他の現状につきましては、担当主幹の方から説明をさせていただきます。</p>
教育支援担当主幹	<p>資料1の教育支援センター月別利用状況を見ていただくと、去年に比べて利用者数が増えています。いくつか要因がありますが、その一つに、知的学級のお子さんが学年相当の学習に取り組んでいることによって、ついていけずに来ている子や、本来であれば知的学級ですが、上富良野高校への進学を希望しているため通常学級に変更するも、学習が難しく、ついていけないことでセンターに来ている子たちが増えております。</p> <p>知的学級に関しては、小学校・中学校共に、現状から今後どうするかを話し合いながら、学校の先生方にもできることをやっていただくようお願いをしているところです。</p> <p>その他、予備軍的な子どもたちもいらっやあって、今後この数が増えてしまうと、最初に設定していた受け入れ可能数を超えてしまうのではないかと危惧しています。</p>

町長	<p>首長としては、教育支援センターの運営は、沿線でもニーズがあるということで聞いており、非常に保護者の方からも評価を得ております。引き続き継続して行ってほしいと考えております。人的な部分も含め、この結果を見て感想又はご意見を伺いたいと思います。</p>
三熊委員	<p>利用者が増加傾向にあるという話がありましたが、特別支援の子が増えているということは、不登校の子が来ている状況なののでしょうか。それとも学校に通いながら放課後等の時間を利用してセンターに来ているのか、学校は全く行けない子がセンターに通っているのでしょうか。</p>
教育支援担当 主幹	<p>特別支援でセンターに通っている子たちの多くが後者で、学校に行けなくなり、学校との繋がりが切れている状態でセンターに来ているという状況です。</p>
町長	<p>学校の役割とセンターの役割を明確にする必要があると思います。センターも人員に限りがあるため、頼られ過ぎても困ってしまいます。</p>
教育支援担当 主幹	<p>学校側でその子たちにあった支援をしていただくのが筋なので、先生方にご説明し、学校にも居場所ができるようになっていくのが良いと考えています。</p>
久保委員	<p>子どもたちが学校の保健室に通っているというのを聞きますが、今現在小学校の保健室はどのような状況になっているかを教えていただきたいです。</p>
教育支援担当 主幹	<p>上小での話をいうと、結構にぎわっています。保健室の先生が見てくださっています。センターを利用している子たちの中でも保健室でお世話になって、時々授業に行って、という形をとっている子もいます。</p>
久保委員	<p>そうなると、将来的にまだセンターの利用人数が増えるということですね。今現在のスタッフの人数では足りなくなりそうですね。</p>
四釜委員	<p>センターの運営開始前から学校に行くのがゴールじゃないという話をしてきました。家族以外の第三者と交流する場としてセンターを使っているというのは、支援センターができた価値という意味で非常にありがたく思っています。</p> <p>今後人数が増えた時に、今の場所が手狭になっていくのではないかと感じています。だからといって場所を2ヶ所にするのが良いのか、あるいは新たに違う場所を設置して、広いスペースがあった方が使いやすいものなのでしょうか。</p>
教育支援担当 主幹	<p>公民館のホールにいる組と上の階にいる組でスタッフが分かれてしまうので、人数が厳しいときはありますが、空いている部屋を利用させていただいて</p>

町長	<p>いるというのもあって、今のところ場所は大丈夫という印象です。</p> <p>スタッフの数でどれぐらいを想定していたかはありますか。</p>
教育支援担当 主幹	<p>単純に頭数だけでお答えできない要素があるので難しいですが、今年は人数が増えており、さらに特別支援のお子さんたちが増えてくると、かなり厳しくなるのではないかと考えています。</p>
林委員	<p>手がかかる子の保護者の方がどのような支援を教育支援センターに望んでいるのでしょうか。学校の方にも、支援の子にはこのように指導して欲しいというのを伝えていくことが大事ですよ。</p>
三熊委員	<p>教育支援センターに通っている子どもというのは、学校にセンターと同じようなものがあっても、学校へ通えないのでしょうか。似たような場所があっても、学校に行こうと思うと行けなくなってしまうのでしょうか。</p>
教育支援担当 主幹	<p>大前提として、学校に行きなきゃいけないのは自身でもわかっているのですが、学校の玄関に行くだけで拒否反応が出てしまう子も中にはいるので、学校には行けるなら行きたいが、仕方ないからセンターに来て、こちらで居心地を見つけて、何とか学校に行こうとしているという子たちが多いですね。</p>
教育長	<p>町内にも事業所が今後開設されるようになれば、事業所の力も少しお借りできないかなと考えています。学校と行政、教育委員会の支援センターだけが全部担うというのは、これからの時代難しいのではないかと。保護者も仕事もしていらっしゃるところもあるので、町内の事業所でもお手伝いしてもらって子どもの居場所として、町内の皆さんとも情報連携していければと考えています。また、教育支援センターの現状については、今後とも教育委員の皆さんとも情報共有をしていこうと考えているところです。</p>
町長	<p>学校に行けない子をどのようにフォローしていくかが地域の問題なのですが、ある程度スタッフでどこまでできるかを見極めて、限られた予算、限られた人数の中で学校等も含めて調整して来年も引き続き、そういうお子さんの対応をしていければと考えております。</p>
教育振興課長	<p>次に、部活動の地域移行について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>部活動の地域移行について資料2に基づき説明。</p>

	<p>部活動の地域移行につきまして説明いたします。現在、国及び北海道では、令和5年度から7年度までの3ヵ年で、休日の部活動から段階的に地域移行することを目指しております。資料の1ページ目には、部活動とは、指導要領に位置付けられた活動であり、貴重な人間形成機会の役割があることや、その反面で必ずしも指導は教師が担う業務ではないということで、休日の活動や指導経験の部分があるなど課題を記載しております。併せまして、国が示す具体的な推進策としての休日から段階的に他の学校との合同部活動の推進や、大会等の参加資格の整備等について記載しております。</p> <p>上富良野町で地域移行を検討するにあたり、部活動の指導を行っている教員と合わせ、少年団活動の方で指導を行っている団体もあること、教員が指導を行っている団体もあることから、中学校と小学校教員の方で移行に関してのヒアリングを実施したところであり、2ページ目が部活動における結果で、3ページ目が少年団における結果をまとめたものとなります。</p> <p>結果として、地域移行そのものに反対する意見というのはありませんでしたが、移行後も継続して指導が可能との回答が多かった反面、一部の部活動では指導権限がないという理由で、以降は指導難しいという回答もあったところです。その中で赤字表記にしている部活動については、以降は指導体制が維持できないと思われ、地域からの指導者を確保する必要があります。</p> <p>今後地域移行するにあたりまして、受け皿となる組織、人材の確保が大きな課題となっておりますので、引き続き教育委員会としましては、先進事例の研究や近隣市町村との情報連携を進めてまいります。説明は以上です。</p>
町長	<p>町としては、指導者がいるようでいないことも含めて、距離が離れてるといのがちょっとネックと考えています。皆さんどうい希望があるのかなということも含めて、お話をお伺いしたいと思います。</p>
三熊委員	<p>ヒアリングしたのは現状携わっている先生で今後も活動していただける先生なのであれば、全体を通してもう少し聞いてみても良いのではないかという気もします。</p>
久保委員	<p>指導者を呼ぶにあたり、子供たちを育てたいというボランティアの精神も大事ですが、報酬が必要になってくると思います。その予算はどこから出すのかなというところも問題になると思います。</p>
四釜委員	<p>久保委員と同じで、指導していただける方には評価というところで報酬はあるべきだなと考えています。自分も指導に携わったことがあって余計に思うのですが、やはり教員は必要だなと思います。</p>

林委員	<p>どうしても部活動という位置で、参加する子どもの気持ちだったり、モチベーションだったり、それぞれ違いがあると思うのですが、単純にその地域移行で教えられる人が指導について、ただ楽しみたいという子に場所がなくなってしまわないかなっていう不安を感じています。スポーツを通じていろんな経験や仲間を作ろうっていうのも含めると、学校生活の様子をわかっている教員が携わる必要はあると思います。</p> <p>やはり指導してくれる人への報酬がないと、お願いをできないし、見てくれる人にちゃんと賃金を払うというシステムを作っておかないと、なかなか前に進まないのかなと思います。</p>
町長	<p>これが部活だよと、誰が決めるのでしょうか。クラブチーム、合同のチームなど部活ではないというのをどう決めていくのか。誰がどういう定義で、これは部活だ、これは部活でないと決めるのか。習い事も、個人と部活の境界線を誰が決めるのか、境界線はどこなのか、非常に悩ましいと考えています。</p> <p>家庭の習い事と学校の教育としての部活の境目や、クラブチームなどの勝利至上主義との境目というのは、しっかり持っておかないと混乱すると思っています。</p>
教育長	<p>部活の地域移行、国は地域への展開と言葉を変えて、計画年度も改革推進期間を延ばしております。行政ではどこまでするのかとなったときに、学校から部活を切り離すと決めている自治体もあるように聞いています。</p> <p>本当にいろいろな特徴のあるお子さんがいる中で、まずは学べないお子さんを作らないように取り組んでいこうと考えています。国も大きく転換しようとしているので、町としてどういう道を選ぶのかは、協議会で検討してまいりますので、その辺りについては情報交換させていただきたいと思います。今後の部活動のあり方について少し下準備をしなければならないのが、来年度かなと考えているところです。</p>
町長	<p>学校から部活を切り離しても、都会ではやっていけます。ただそうすると田舎では、やりたいスポーツもできなくなり、ますます地方で子育てしたくないという人が増えても困ります。クラブチームと少年団、習い事、部活動をどう整理するのかというのも含めて、十分時間があると思いますので、皆でまた考えていければなと思っております。</p> <p>次に、給食センターについて事務局より説明をお願いします。</p>
教育振興課長	<p>給食センターについて資料3に基づき説明。</p>

	<p>給食センターについては、施設の経年劣化によって、現行の衛生基準等への不適合等々あり、保健所からも指導を受けている状況です。また、今後のセンター運営に係る方向性の検討というのが急務になっているところです。昨年の総合教育会議におきまして、今後協議を進めていく必要性については確認がされていたことから、3つの必要手法につきまして検討を進めてまいりました。①が富良野学校給食センターから給食提供を受ける案。②が上富良野学校給食センターとして改築を行う案。③が民間事業者によるスクールランチへ移行する案となっております。</p> <p>このうちの検討①富良野学校給食センターから提供を受ける案につきましては、富良野学校給食センターへ8月に協議の依頼を行いまして、9月の広域連合教育委員会におきまして、回答が示されております。内容は裏面に記載してある通りですが、富良野学校給食センターとしては、給食提供数の増加に対応するための調理員の確保、現施設の調理スペースの拡充、及び委託事業者の受け入れ等々が困難であるという見解から、上富良野町分を調理提供することは難しい状況という回答がありました。</p> <p>この回答を受け、残りの2つの手法についてさらに検討を進めていかなければならないと考えているところです。資料は以上です。</p>
町長	<p>アレルギー食に対応できるというのがスクールランチのいいところであると考えております。建設する費用を10億から15億円ほど捻出するのと、将来の運営していくときのリスクをどう判断していくのか。これについても皆さんからご意見を伺いたいと思います。</p>
三熊委員	<p>前から話をしているのですが、本当に子どもたちのことを考えたら、自前で施設を建てるのが理想ですが、果たしてその余裕があるのか。この10から15億円というのを考えて、将来的に子供もどんどん減っていくと考えると、果たして建設するのはどうかと考えると、本当に難しい。最終的にはこの2番と3番の案のどちらかにしなければいけないと思うのですが、その辺りは私たちだけでなく、保護者の方、町民の皆さんにも意見を求めてからでもいいのかなと思います。</p>
町長	<p>生徒が将来減ってくる中で新たな投資をするのはどうなのかというのがあり、過剰な投資ではないのか、生徒減にどう対応して15億投資するのがいいのかというのは相談していかなければならないことだと思います。</p>
久保委員	<p>現実的にこれから少子化を迎える時に15億という費用がどうなるのかなと</p>

<p>四釜委員</p>	<p>いう心配もあるし、スクールランチになるにしても、保護者の方の意見は必要になるのではないかなと思います。</p> <p>上富良野の町に給食センターがあり、そこで作ったご飯を子供たちが給食として食べられるというのが理想ではありますが、今後10年、20年、30年後のことを考えたときに、予算だけでいうとスクールランチに移行する方が、町としてもやりやすく、逆にその分違うソフト面で子供たちにバックアップできる部分も増えるのではないかなと思います。</p>
<p>町長</p>	<p>米とか野菜の地場産品、今後やり方によっては食育が担保できるのかもしれませんが。2案にしろ3案にしろ、地場産品を使わなければならないと町長としては考えております。</p>
<p>林委員</p>	<p>色々な物価が高騰している中で、スクールランチの今の単価が本当にこれから続いてくれるのかっていう心配ももちろんありますし、スクールランチの提供をやめると言われたらという不安もあるのですが、現状からスクールランチも致し方ないと思っているところです。</p> <p>あとはもう一つ、給食費の無償化等、食材費の高騰等もありますが、今の給食費を何とか維持していただければと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>来年度に向けて、選択肢の中から後悔しない施策として提案したいと考えておりますので、給食センターのあり方について、町の方へ教育委員会としての考え方を提案していくような形で進めていきたいと思っています。</p>
<p>町長</p>	<p>関係する保護者や、農産物、米とか野菜の農業団体の声を反映できる、検討委員会等できればと思っています。</p> <p>その他ということで、何かありますか。</p>
<p>四釜委員</p>	<p>中学校の2年生、3年生のクラスがかなり手狭に感じています。あわせて音響などの設備改修できるのであれば検討していただきたいなと思っています。</p>
<p>町長</p>	<p>中学校の広さについては、教育委員会とも来年度に向けて行っている最中です。機器環境の改善も、予算の関係は財政も含め話しあっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>地域や保護者の意見含め、率直に教育委員としてのご意見を賜りたいと思っていますので、協議よろしくお願ひします。</p>

町長	<p>他に皆さんご質問・ご意見等ないでしょうか。</p> <p>(委員からの意見等なし)</p> <p>以上で議題の方終了いたしましたので、令和6年度の総合教育会議を終了させていただきます。</p>
----	---

8 閉会宣言 16時10分

上記会議の経過は、書記の調製したものであるが、その内容の正確なることを証するため、ここに署名する。

令和6年11月8日

上 富 良 野 町 長

上富良野町教育委員会教育長